

留学を終えて

恵那高等学校 伊佐治 里彩（アメリカ）

アメリカで過ごした9ヶ月は私の人生で一番大変で美しい時間でした。私はこの9カ月間で多くのことを学びましたが、その中でも特に大きな学びだと思ったことは、2つあります。

1つ目は、挑戦することは、とても楽しいとわかったことです。私は、日本にいる間、自分の可能性を勝手に決めて何も挑戦しませんでした。留学を決めたことは、今までの私の人生の中で一番の挑戦でしたが、留学をする決心がついた1つの理由は友達も留学に挑戦したからです。1人だったら挑戦できなかったと思います。しかし留学試験に合格し、留学をさせていただけることが決まった後、私は何度も不安な気持ちに襲われました。自分に自信が持てなかったからです。

そのような気持ちでアメリカに渡ってすぐの頃、一番苦労したことは、現地の人達の会話に参加することでした。その頃は、会話を理解するのに十分な英語力を持ってなかったので、私なんかが会話に参加したら、みんなが会話を楽しめなくなってしまうと思っていました。また、私が英語を話せないことをみんなに知られたくない、会話で間違えたくないという変なプライドもありました。自分の英語力に落ち込んでいた頃、高校でタイからの交換留学生の女の子に出会いました。彼女は英語を上手に話すことができ、誰とでも会話が楽しめる明るい子でした。彼女は私に何度も話しかけてくれました。しかし、私は、自分と彼女を比べてしまい、彼女と会話をするたびに惨めな気持ちになっていました。そして、彼女を避けるようになっていきました。私は自分に失望しました。私は、ホストファミリーに、「自分に自信が持てず、本当はもっと多くの人と会話をしたいのに話しかけられない。話しかけられても、不安になって、すぐ会話を終わらせてしまう。」と悩みを相談しました。すると、ホストファミリーは、「私は、あなたを尊敬している。その年齢でここに一人に来て、英語で会話をしている。私は、英語以外の言語を話せないからあなたはすごい。それに、皆きっとあなたと同じようにあなたと話したがつている。一度、自分から話しかけてみたら、きっと皆あなたとの会話を楽しんでくれる。もし、何か事情があってあなたと会話できないなら、今は無理だと言われるだけだ。」と励ましてくれました。その時、私は、自分が必要以上にすべてを怖がっていたことに気が付きました。会話を断られること、うまく会話ができないことなど自分が失敗する未来ばかり想像していたのです。次の日、私は、ホストファミリーの言葉を胸に、現地の生徒に初めて自分から声をかけてみました。すると、彼らは、笑顔で私と会話をしてくれました。私のつたない英語を馬鹿にせず、真剣に理解しようとしてくれました。こうした会話がきっかけで何人かの生徒と友達になりました。私は、学校に行って皆に会うのが楽しみになりました。会話する機会が増えたことによって、私の英語力もだん

だんと改善され、自分に自信が少しついてきた頃、私は、タイからの留学生にも自分から声をかけられるようになり、私たちは友達になりました。留学中は、挑戦の連続でした。毎日のように、新しい悩みができ、それらを解決するために何度も何度も挑戦を繰り返しました。私は、初め挑戦することが嫌いでした。失敗するのが怖かったからです、しかし、留学中、何度も挑戦し、何度も失敗する中で気づいたのは、失敗は無駄にはならないということです。どれだけ無理だと思ったことも、それらの失敗を糧に成功する日は必ず来るはずです。そして、なにより成功した時の喜びはとても大きいものだと思います。失敗を恐れて、なにも挑戦しないのは、もったいないと思います。挑戦は、私たちの生活を豊かにします。私は、これからも挑戦を続けたいです。

2つ目は、アメリカは日本と違う魅力を持っているということです。まず、私が感じたアメリカの魅力は、子供が自由に学ぶことができるということです。現地の学校では、授業を自分たちで自由に選ぶことができました。専門的なことを学ぶために大学の授業をとっている生徒もいました。また、私のホストブラザーは、学校には行かず、ホームスクールと呼ばれる方法で勉強をしていました。ホームスクールとは、親が先生となって、家で勉強するということです。ホームスクールのために地元の博物館や、図書館なども授業をおこなってくれていたため家で学ぶだけでなく、家の外で他の子供たちと一緒に学ぶ時もありました。私も学校が休みの時は、授業に参加しましたが、皆が積極的に質問をして楽しく学んでいました。きっと、興味のある授業を選んでいるからだと思います。アメリカでは、それぞれの子の長所を伸ばすための教育が行われているように感じました。次に感じた魅力は、アメリカの方々は楽しむときは全力で楽しむことができるということです。ハロウィン、クリスマスなど日本でもなじみがあるイベントをアメリカで体験した時、その規模の大きさに驚きました。例えばハロウィンの時、大半の人は何か月も前から仮装の案を練り、家の庭は1か月ほど前からハロウィンらしく飾り付けられていました。日本では、こうしたイベントは子供のためという印象が強いですが、アメリカでは大人も子供も関係なく全員が楽しんでいました。いつも、アメリカで出会った方々は、生きているのが楽しいという気で溢れていました。私も、楽しむ時間を持つことを大切にしたいと思います。

私は、留学中、何度もアメリカが“自由の国”であることを実感しました。それは一方で、自分に責任を持つ必要があるという意味にもなります。挑戦するのも、学び方も、楽しみ方さえ自分で決められます。これから私の将来がどうなるのかは未だ何もわかりません。私は、留学での学びを忘れず、未来に“自由”に羽ばたいていきたいです。